

1. 家計と先行き不安

(1) 家計の先行きに不安を感じている人は4割以上

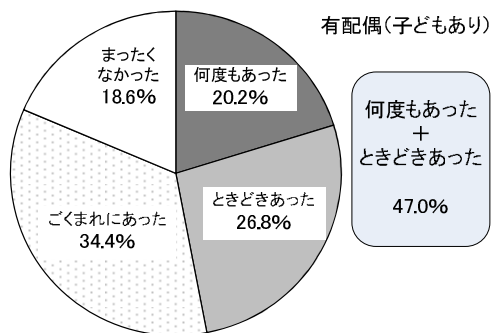
マクロ経済や景気の動向についてさまざまな議論がなされているが、個々の家計のレベルでは、先行きの不透明感が引き続き強く意識されていると思われる。

そこで、「この1ヵ月の間に、家計の先行きについて不安を感じたことがどのくらいあったか」をたずねたところ、不安を感じたことがある程度以上あった人は、有配偶で子どもがいる女性では47.0%、無配偶の女性では42.5%にのぼった（図表1-1）。

家計の先行きに不安を感じているのは、決して一部の人ではないことがわかる。

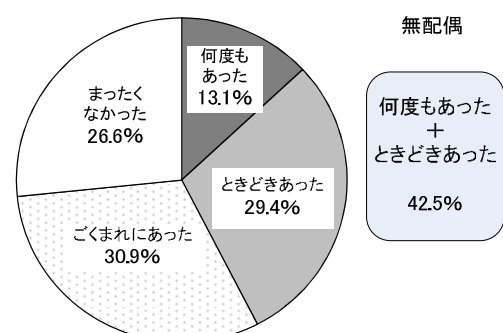
図表 1-1 この1ヵ月の間に、家計の先行きについて不安を感じた頻度

<有配偶（子どもあり）>



N=1,079

<無配偶>



N=582

(2) 貯蓄にまわしている金額の差が、家計の先行き不安の背景に

家計の先行きについて不安を感じたことがあった世帯（何度もあった+ときどきあった）を「不安世帯」とし、それ以外の世帯を「安心世帯」としよう。それぞれについて、調査時点（2012年9月）の1ヵ月間の収入・支出・貯蓄を調べてみた（図表1-2）。

収入をみると、「不安世帯」は「安心世帯」に比べて少ない額となっている（有配偶世帯（子どもあり）で34万9千円と39万8千円、無配偶世帯で14万2千円と16万4千円）。しかし支出をみると、「不安世帯」と「安心世帯」の間に大きな差はみられず（有配偶世帯（子どもあり）で25万0千円と26万1千円、無配偶世帯で12万9千円と12万7千円）、「安心世帯」は収入が高いといってもその分多く支出しているわけではないことがわかる。

支出に差がない分、貯蓄には差がみられる。「安心世帯」の貯蓄額は、「不安世帯」に比べ高い水準の額となっている（「不安世帯」「安心世帯」の順に、有配偶世帯（子どもあり）で5万2千円と7万8千円、無配偶世帯で1万7千円と2万9千円）。毎月の収入から貯蓄にまわすことのできる金額の差が、家計の先行き不安感と関連していることがうかがえる。

図表1-2 「不安世帯」と「安心世帯」の1ヵ月の収入・支出・貯蓄

	＜有配偶（子どもあり）＞		＜無配偶＞	
	不安世帯 (N=503)	安心世帯 (N=575)	不安世帯 (N=241)	安心世帯 (N=325)
収入(手取り)	34万9千円	39万8千円	14万2千円	16万4千円
支出	25万0千円	26万1千円	12万9千円	12万7千円
貯蓄	5万2千円	7万8千円	1万7千円	2万9千円

(3) 夫のこづかいは、家計の見直しのターゲット？

家計の先行きに不安を感じる世帯では、家計にどんなしわ寄せがみられるのだろうか。ここではその一例として、夫のこづかいに注目する。

有配偶世帯（子どもあり）について、夫のこづかいの月額と、その額が前年に比べてどのように変化したのか、「不安世帯」と「安心世帯」で比較した（図表 1-3）。

まず、夫のこづかいの月額（平均値）をみると、「不安世帯」では 2 万 9 千円、「安心世帯」では 3 万 4 千円であり、「安心世帯」の方が多い。

次に、2011 年と 2012 年の夫のこづかいの金額を比較すると、「不安世帯」では前年よりも平均で 1 千円減少している一方、「安心世帯」では 1 千円増加している。また、夫のこづかいを減らした世帯の割合をみると、「不安世帯」では約 3 割だったのに対して、「安心世帯」では約 2 割にとどまっていた。

つまり、「不安世帯」は「安心世帯」に比べて、夫のこづかい額が少ないだけでなく、前年から減らした世帯の割合がより多くなっている。家計の先行き不安が感じられるなかで、夫のこづかいは支出見直しのポイントの一つになっているようである。

図表 1-3 「不安世帯」と「安心世帯」の夫のこづかい

夫のこづかい額	不安世帯 (N=175)	安心世帯 (N=204)
2011年	3万1千円	3万3千円
2012年	2万9千円	3万4千円
1人あたりの変動額	-1千円	+1千円

夫のこづかい額の増減	不安世帯 (N=175)	安心世帯 (N=204)
減少	28.0%	21.1%
変化なし	50.3%	47.1%
増加	21.7%	31.9%

(4) 家計の先行きに不安な世帯ほど、消費税アップを意識？

2013年10月、翌年からの消費税の税率引き上げ実施が発表された。消費税の税率引き上げは、家計の先行き不安によって、受け止められ方が異なることが予想される。そこで、調査時点（2012年9月）の家計の先行き不安の有無と、消費税の税率引き上げについて、有配偶世帯（子どもあり）にしぼって調べた。

消費税アップに反対と回答している割合は、「不安世帯」では31.7%だったが、「安心世帯」では20.8%であった。また、税率が引き上げられたら支出を見直す予定があると回答した割合は、「不安世帯」では67.0%、「安心世帯」では57.6%であった。家計の先行きに不安を感じている世帯ほど、支出の見直しの必要性も感じていることがうかがえる。

また、見直すと回答した世帯に、具体的にどの分野の支出を必ず見直す予定かをたずねた（図表1-4）。すべての分野について、「不安世帯」は「安心世帯」よりも見直す予定があると回答した割合が高くなっているが、特に「食料品等の生活必需品」と「娯楽・外食」に関して、「不安世帯」と「安心世帯」の割合の差が大きくなっている。他方で、「家電・自動車」ではあまり差がみられない。

「不安世帯」ほど、消費税の税率引き上げの際に、支出を積極的に見直そうとしており、特に食料品や娯楽・外食への支出を見直そうとしているようである。

図表1-4 「不安世帯」と「安心世帯」の消費税アップ時に必ず見直す分野

	不安世帯 (N=368)	安心世帯 (N=363)	差
生活必需品	42.4%	28.9%	13.5%
光熱費	35.6%	25.9%	9.7%
娯楽・外食	42.7%	26.5%	16.2%
奢侈品	38.0%	26.5%	11.6%
家電・自動車	25.5%	24.0%	1.6%

*生活必需品：食料品などの生活必需品

奢侈品：衣服や化粧品などの奢侈品

家電・自動車：家電や自動車など的高額商品の購入